

「障害と自動車運転支援委員会」の活動報告

障害と自動車運転支援委員長
緑川 学



I はじめに

公共交通機関の発達していない茨城県で自動車運転が出来なくなることは、これまでの生活継続を困難とする。自動車運転の再開には十分な評価・支援が必要であるが、その取り組みは施設によって異なる。疾病後の自動車運転再開を支援するために、茨城県作業療法士会は「障害と自動車運転支援委員会」を発足した。これまでの活動を報告する。

II 茨城県内の病院・施設での自動車運転支援状況

65 施設の病院と老人保健施設に自動車運転支援状況をアンケートし、34 施設から回答を得た。自動車運転評価は、入院 16 病院、外来 12 病院で実施され、急性期、回復期、生活期のいずれでも実施されていた。ドライビングシミュレータ（以下、DS）を持っている施設は 4 施設であった。使用している神経心理学的検査は TMT が最も多く、次いで Rey 複雑図形検査とコース立方体検査であった。その他、SDSA、WAIS-Ⅲ、WMS-R、BIT 等が使用されていた。多くの施設が机上評価のみの運転評価を不十分であると感じていた。

実車評価を行っている施設の作業療法士は、教習所教官と連携することで違った視点を知ることができ有益であると述べている。

上記以外で DS が設置されている施設には、機能訓練サービス事業所 5 施設（青嵐荘、かさま障がい者サポートセンター、機能訓練センターフリューゲル、しらゆり荘、もみやまりハビリテーションセンター）があり、障害者総合支援法の対象者へ自動車運転支援を行っている。

III 茨城県内の関連機関との連携

指定教習所との連携に向け、平成 30 年 5 月に東京工科大学の澤田辰徳先生を講師とし、教習所職員へ「高次脳機能障害の自動車運転」をテーマに勉強会を開催した。

また、平成 30 年 12 月に千葉県立保健医療大学の藤田佳男先生による「高次脳機能障害の自動車運転～その適性評価と取り巻く状況～」が水戸市で開催され、茨城県作業療法士会も後援として参加。医療従事者、県民に向けた分かりやすい講義が行われている。

Ⅳ 先進的な施設への見学

日本作業療法士協会「運転と作業療法特設委員会」が企画する「自動車運転支援を行う先進的施設見学」に参加し、千葉県千葉リハビリテーションセンターを見学。当日は茨城県内の病院、介護保険分野に勤務する 8 名の作業療法士が参加した。千葉県千葉リハビリテーションセンターでは、視力・視野検査、神経心理学検査、DS、停止車両評価、実車評価を自動車運転再開に向け実施していた。神経心理学検査や DS の結果にはカットオフを設けず、全ての検査結果や検査中の様子も含めて総合的に判断していた。実車評価では作業療法 2 名が同乗し、教習所教官と連携し評価していた。運転支援の人材育成は、免許取得後 3 年目以上の作業療法士を対象に CAT の評価・解釈を指導し、停止車両や DS、実車評価は先輩セラピストが現場で指導を行う体制であった。



自動車運転支援の講義



DS での評価



停止車両評価

Ⅴ おわりに

自動車運転支援の発展のためには、作業療法士間の連携に加え、他の医療従事者、免許センター、指定教習所との連携が重要であり、今後取り組むべき課題の一つである。また、自動車運転支援ができる作業療法士の育成も重要であるため、勉強会などを企画していきたい。